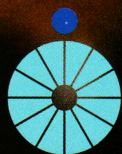


文部科学時報

文部科学省 編集



文部科学省
MEXT
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



特集

- **地域の未来を創る公立大学**
その変革と現状
- **世界トップレベル研究拠点(WPI)から**
日本人も外国人もノーベル賞を目指せ!
- ◇ **Activity report of MEXT**
The 公立大学!
宇宙の謎の解明に挑む WPI 研究拠点
数物連携宇宙研究機構の研究棟完成

Personality
driving force for the next

東北楽天ゴールデンイーグルス 投手

岩隈久志さん

向上心——あきらめないこと

Power up & Renewal !!

文部科学時報2010年度連載 いよいよ始動

「定住外国人の子どもへの支援」「ユネスコスクールへようこそ」「きらりと光る学校施設を目指して」「困ったときには図書館へ」「動物園・水族館・植物園の教育・研究活動」「海外最新教育情報」「学校を支える地域の力」「KOMINKAN in Asia(6月号～)」「Step together 特別支援教育の更なる推進に向けて」「進化する高専創造そして実践」「進む大学教育改革」「見つけて伸ばせ！子どもたちの科学の芽(6月号～)」「海外最新科学技術情報」「学術研究の最前線」「量子ビーム研究の現状と可能性」「frontier 先端技術開発」「チーム「ニッポン」を支える」「総合型地域スポーツクラブへ行ってみよう！(6月号～)」「自然に学び仲間と笑う」「文化財を守る」「博物館ななめ歩き」「鑑賞席」「アジアの国立博物館」「NIER 国立教育政策研究所 report」「NISTEP 科学技術政策研究所 調査研究報告(6月号～)」

研究面でも、研究者OBを中心とする経験豊富で英語に堪能なスタッフが、研究・実験支援、装置・消耗品購入、装置メンテナンス、安全管理、競争的資金提案支援など、手厚くサポートする体制が整っています。各種登録、住居探し、病院付添い、緊急時

対応など、外国籍研究者の日本での生活立ち上げを手厚く支援しています。また日本を理解してもらうために、外国籍研究者を対象とした日本語教室や日本文化教室を常設しています。さらにMANNAに近接して外国籍研究者を対象とした公的な宿泊施設があり、MANNAに滞在して研究する外国籍研究者には理想的な環境が整っています。

日本的な「辛い所まで手が届く」サービスを、国籍に関係なくすべての研究者に即断即決で提供する、このような環境がMANNAでは実現しています。

せん（しかし、研究費が成功を約束するものでもありません）。それにも増して良い研究を行うために重要なことは、とにかく良い人材を得ることです。優れた研究者の気概ほどいい成果を引き出すものはないと強く感じます。

若手研究者からWPIに一言

研究者の気概 若手研究者の立場から

原子分子材料科学高等研究機構准教授 一杉太郎

心意気

世界と戦うアスリート達の気概を強く感じたバンクーバー冬季オリンピック。選手達の輝く時間は一瞬でしたが、浅田真央の涙ほど強い印象を残したものはなかったのではないのでしょうか。アスリートは良い競技環境、練習環境を求め、そこで自分を極限状態まで追い込み、世界一になることに専心しています。勝つための努力と達成感、負けたときの悔しさ。それらをすべて含んだ涙でした。

与えることであり、具体的には東北大学WPIAIMRではフュージョン（fusion）研究という名で呼ばれる、異分野の発想同士の接触による新概念創出の仕掛けです。

生まれにくい場合があります。しかし、WPIAIMRではそのような垣根を崩す動きが進行し、毎週のティータムやフュージョン研究スタートアップ支援をはじめとする、インフォーマル、フォーマルの両観点から、研究者間の接触を増やす仕掛けがあります。

東北大学は材料研究では非常に充実した歴史を持っています。古くは「鉄の神様」と呼ばれた本多光太郎先生（1870-1954）以来の長い伝統です。そして、東北大学は建学以来、「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を標榜しています。これら理念は、研究者が胸襟を開いてフュージョン研究に邁進する東北大学WPIAIMRの理念にまさに一致していると言えるでしょう。

研究者の心意気というのも、アスリートが競技に對峙するときの気持ちと同じようなものではないでしょうか。素晴らしい研究環境を求め、そこで自分の創意工夫を最大限発揮し、人類史上に燦然と輝く知識の創出を行います。そしてそれに到達するまでの知的興奮とライバルとの競争も共通します。

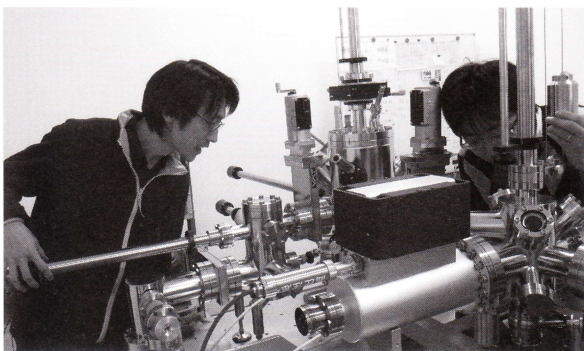
このフュージョン研究というものは、単なる共同研究ではありません。異分野の研究者同士が触れ合った時に生じる、新たな思考法、新たな研究領域の創造が最大の狙いです。従来の大学組織では、研究室という殻に囲まれ、アイデアの交流が研究グループ間で

もちろん、成果に対して強いプレッシャーがあります。その一方でそれを達成するためのサポートも豊富です。例えば、教育や大学事務に関する業務からの解放があり、研究活動に割ける時間は確実に増えました。しかし、研究費は自分で獲得しなければならず、相変わらずあくせくして資金獲得しているのが実情です。ここは制度設計の余地があるでしょう。研究費が無ければ、絶対に成功しま

最後に 世界で1番になるというモチベーションは限りなく研究者を強くします。世界トップレベル研究拠点（WPI）という、そのような高い理念をもった研究機関で研究を進めるといのは非常に恵まれていると感じています。あとは有言実行。この一言に尽きます。

フュージョン研究

WPIは間違いなく、優れた研究環境を提供する場です。研究者に対して刺激、時間、場所を与えます。これらのうち、WPIだからこそという特徴の一つが、研究者に刺激を



成果に対するプレッシャー

最後に